中央同窓会報

第28号

CONTENTS

特集 対談「工夫と努力の継続から得るもの」
野球部監督 松本 稔 × 同窓会長 時澤 秀明 …… 6

特別寄稿 …… 3
母校だより …… 8
進路だより …… 12
同窓会活動報告 …… 14
他

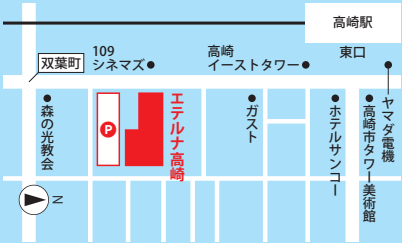
題字：8期 廣瀬 正史（少林山住職） 表紙の写真：現在の校舎（平成31年3月撮影）

令和3年度

通常総会のお知らせ

日時 2021年6月26日(土) 17時～
会場 エテルナ高崎
高崎市栄町22-30 TEL027-323-1122

総会終了後、懇親会を予定しています。
会費：3,000円（学生1,000円）
会員のみなさまのご出席をお待ちしています。



なお、コロナ感染症等の状況により予定を変更する場合は、5月中に当会ホームページにてお知らせいたします。

発行
群馬中央同窓会
卒業者数 15,156人（中央高等学校 13,697人 中央中等教育学校 1,459人）2021年4月1日現在
〒370-0003 群馬県高崎市新保田中町184 TEL.027-370-6663 FAX.027-370-4910
ホームページ http://www.chuo-ss-ob.com

中央中等教育学校校歌
中央高等学校校歌

作詞 草野 心平 作曲 渡辺 浦人

一、春はむらさき 夏は雲
群青の秋 雪の冬
白亜に映える 学び舎に
太陽光は ふりそそぐ
おお朋がらよ 眉あげて
火の山の 高きにならえ
若人よ 腕組みて
新しき学を きわめん
群馬中央 われらが母校
われらは真と美に生きる

二、赤城風を なつかしみ
仰ぐは四季の 榛名山
校旗はためく 学び舎に
われらは集う おおらかに
おお朋がらよ 胸張りて
健康に わが身鍛えん
若人よ こぞりてぞ
新しき文化 築かん
群馬中央 われらが母校
われらは善と義に生きる

中央高等学校
昭和38年1月1日創立

中央中等教育学校
平成15年4月1日創立

同窓会長あいさつ

人と人とのつながりを

同窓会長　時澤　秀明

人と人とがつながること―。今、その大切さが改めてクローズアップされています。

コロナ禍によりこれまでの日常が急変し、すべての人々が行動を制限されてしまいました。それは仕事のやり方も変えざるを得ない状況を生み、計り知れない経済状態の悪化を招いています。当たり前のように回っていた生活が当たり前ではなかったのだということを、誰もが痛感しているのではないでしょうか。これは、地震や台風、豪雨、火災などによる大きな災害のときでも同様でした。想像を超える苦難を前にしたとき、人は為すすべを失って茫然としてしまうものです。

苦しいときこそ支えになり、人を励まし、元気を与え、生きる力を呼び起こしてくれるもの。それは人の心の温かさなのではないでしょうか。しかし、今の時代は、人と人とのつながりが弱くなり、人の心を感じにくくなっていると言われます。インターネットの急速な進歩により、家に居ながらでも様々なことができるようになったことも一因でしょう。自治会活動や子供会活動なども衰退傾向にあると聞きます。

こんな時代だからこそ、もっと人と人とのつながりを創っていきたい。同窓会活動には、それができる大きな可能性があるのではないか。私は同窓会役員になってから、ずっとそう考えてきました。母校の後輩諸君を応援するという共通の目的のもと、年代を超えて中央高校と中央中等教育学校にまたがる同窓生がつながり、そのつながりがさらに広がることは、母校の発展に寄与するとともに、自分たちの生活を心豊かにしてくれるのではないかと思っています。役員会では、そんな価値が実感できる同窓会活動の実現のため、今何ができるのかを模索中です。

群馬中央同窓会が新たな出会いを生み出す一助となれば幸いです。今後も、同窓会活動へのご理解・ご協力をお願いいたします。

校長あいさつ

20年後、30年後の社会で活躍する力を

校　長　田島　公基

令和2年度は新型コロナウイルス感染防止の対応により、本校においても他の中学校や高等学校と同様に学習活動が大きく制限されました。特に、海外での研修は予定していたものが全て中止となり、残念な思いをした生徒も多かったと感じています。このような状況においても、「できることを考え、工夫し対応しよう」と生徒と教職員が心を一つにして、目の前の課題に対して一つ一つ対処してきました。この結果、授業等もほぼ例年の通り進めることができ、勉強の遅れは感じられない状況にあります。

本校の生徒が社会の中核として活躍する20～30年後は、グローバル化の進展や技術革新等により、社会構造や雇用環境も大きく変化し、予測が困難な時代になると言われています。そうした時代では、様々な変化に積極的に向き合い、他者と協働して課題を解決していく力や、様々な情報を見極め再構成するなどして新たな価値につなげていく力などが、これまで以上に求められます。今回の新型コロナウイルスは私たちを困難な状況に追い込んでいますが、それへの対応が地球規模の課題を解決する実体験の一つとして、今後の生徒の成長の糧となればと願っています。今年度も引き続き、本校オリジナルのFEWC（Frontier Education for World Citizenship）プログラムを力強く実践していく所存です。企業や研究機関への訪問等は例年の通りには進められないと思われますが、生徒の研究が深まるよう工夫を重ねていきたいと考えております。同窓会の皆様には朋友基金等を通じてこのFEWCに対してもご支援いただいていることに、改めて感謝申し上げます。

中央高校の良き伝統を継承し発展させながら、時代を生き抜く力を育み世界に貢献できる人材の育成を目指して、教職員と生徒が一丸となって教育活動に取り組んで参りたいと考えております。群馬中央同窓会の皆様におかれましては、引き続きご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

特別寄稿

夢を追う熱き思い今虹となれ

群馬県高等学校体育連盟会長
【全国高体連：副会長】
15期　髙坂　和之

卒業してから40年以上が経ちましたが、赤城おろしに吹かれ自転車で中央高校に通った日々は、記憶に新しく思い出の多き時代でした。中央は私が入学した当時も、通学範囲が広く県下にわたり、多くの仲間が学んでました。朝の登校時に、オッス（押忍）と敬礼、脱帽して教室に入る同級生から毎日、新鮮な驚きとともに1日のやる気を得てました。会報の写真から見る校舎は、当時より高く聳え、グランドに目を移せば、高校生から始めた陸上競技でしたが、楽しく練習した日々が、今も自分の力となっていることを感じます。当時も、学校の校風は自由闊達な中で、日頃の学校生活や部活動では、個人やチームの目標・目的を大切にし、先生・仲間から学び、取り組み、一つのことを目指して「一致団結する力」は大きなものでした。また、お互いがよき理解者であったり、ライバルとして競い合ったりすることで、自分自身の能力や技量が高められたと思ってます。

振り返れば、その流れは、「中央スピリット」として受け継がれている、「何事にもトライする気持ち」であり、全ての生徒が、先輩や後輩であるといったくくりにとらわれず、誰からでも学び応援・協力できることや、いい面など「よさ」をしっかりと高め合える力が自分自身を成長させるエネルギーであることを、在校生の皆さんも伝統として育んで欲しいと思います。令和2年度は、新型コロナウイルス感染症の拡大を受けて、年度当初から学校の授業や諸行事も大きな影響を受けました。「夢を追う熱き思い今虹となれ」は本県で51年ぶりの大会として準備したインターハイのスローガンです。残念ながら感染症拡大の影響を受けて中止となりましたが、県下の高校生が、取り組んだ総合開会式では、中央中等管弦楽部の皆さんが、公開演技でプロローグやフィナーレなどの演奏を担っていただき、「ぐんまからはじまる虹色の未来、つながれ世界へ」をテーマとして、本県から全国に発信する予定でした。生徒の皆さんには、今回の式典コンセプトとして伝えたかった、「高校生の多様な未来や苦難の末に訪れる成功へのイメージ」を、これからの皆さんの目指す成果として成すことを願い寄稿といたします。

ご挨拶

PTA会長
31期　阿久津　等

今年度から群馬中央同窓会役員の仲間入りをさせていただきました、31期生（理数科）の阿久津と申します。同窓会活動については分からないことだらけですが、微力ながらお役に立てるようがんばっていきます。よろしくお願いいたします。

今現在、中央中等教育学校の6年生に娘が在籍しており、私自身はPTA会長2期目を務めさせていただいています。PTAの活動の様子を少し紹介させていただきます。中央中等PTAも、昨年度の一年間は新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、会議の縮小や行事の中止が相次ぎ、本来の活動が全くできない状況でした。しかしながら平年であれば、PTA総会や各種行事に多くの方々に参加していただいております。主な行事には、地区別・学年別懇談会、学校周辺美化活動、進路学習会などがあります。保護者のみなさんのPTA活動への参加・協力の意識が高く、他校からお褒めの言葉をいただくほどです。生徒たちの志が高いことはもちろん、このように保護者の意識が高いのも、前身である中央高校が培ってきた、物事に積極的に取り組む『フロンティア・スピリッツ』があったからこそだと思います。

余談ではありますが、中央高校同窓生の皆様は、中央中等教育学校へと学校が変わり、校舎も変わっていく中で、さみしい思いを感じられた方もいらっしゃると思います。私もその一人です。ちょっとしたことではありますが、PTA活動などで学校へ入ると中央高校の面影が残っているところを感じることもあります。最初に懐かしいと感じたのは体育館と体育館で使われているパイプ椅子でした。これらは私が高校生だった時のままです。なかなか学校内へ立ち入る機会はないかもしれませんが、他にも皆様それぞれに中央高校を思い出させてくれるものがどこかに残っているのだと思います。

最後になりますが、中央高校の良い伝統を中央中等教育学校へと受け継いでいく同窓会活動に、卒業生として、PTA会長として、保護者として、皆様と一緒に取り組ませていただきたいと考えています。どうぞよろしくお願いいたします。

特別寄稿

国難の未来を担う若い皆さんへ：地域医療の立場から

群馬大学医学部附属病院
中等5期　岡野　督

「本日の下野新聞第1面に本学名誉教授の尾身茂先生（東京1期）の話が掲載されています。（中略）尾身先生の判断には間違いはありません。対策の柱として、クラスターを早く見つける、医療体制の確立、一般市民の行動変容，の3つを挙げています」

この文章は、2020年3月8日に自治医科大学の学内メールで回ってきたものです。3月ですと、日本人の多くはまだまだマスクをつけず、新型コロナウイルス感染症（以下、COVID-19）はクルーズ船の中での話、と思っていた頃です。それから1年半。今の日本は、1年半前には全く予想されなかった世界になっています。私はこの場をお借りして、地域医療の立場から見たCOVID-19の影響について記します。

自己紹介です。中等5期卒、現在は群馬大学医学部附属病院で研修中の岡野と申します。私の母校は隣県栃木にある自治医科大学です。将来は医療に恵まれない地域の第一線で働くことが義務づけられています。

中等にいると、学年が上がるにつれ、医学部を意識する人や、医療を通した社会貢献に関心をもつ人が増えるかもしれません。けれど、広い世の中はそうではない。医療とは、病気になって初めてかかるもの。アパレル業界や航空業界、商社、保険、そのほか就活の花形の産業に比べれば、医療は地味で画一的なものです。医療なんて、多くの健康な人は「つまらない」「自分には関係ない」と思っていたのです。そう、あの感染症が広がるまでは。

冒頭に引用した尾身先生は、私の大先輩であり、WHOでSARS封じ込めに従事した経験もある方です。尾身先生はじめ、東北大の押谷先生や、北大（当時）の西浦先生は、厚生労働省の委嘱で、COVID-19初期の感染経路の解明に乗り出しました。その模様は、2020年4月11日放送のNHKスペシャル「瀬戸際の攻防」に詳しいです。彼らは、初期の100人余りのデータから、ウイルスが感染する特徴を暴きました。それは、「感染者の8割は他人にうつさない」「狭い空間で、クラスターと呼ばれる大量感染が起こる」という事実でした。いずれも日本発のデータです。これらはのちに「3密回避」という日本の戦略につながりました。

日本のデータと感染制御のリーダー、そして「3密」という漢字による意味集約は、日本だけでなく世界の感染制御を変えたと言っても過言ではありません。「3密」という単語は、3月25日の小池百合子都知事の記者会見によって地上波で広まりました。

群馬県を最も震撼させたのは、伊勢崎市の有料老人ホーム「藤和の苑」の大規模クラスターでした。4月7日まで20名ほどであった県内感染者は、16日までに90名近くに達しました。この間に「藤和の苑」では43名の入居者と25名の関係者が感染し、入居者のうち16名が亡くなっています。つまり、「初期のウイルス株では、基礎疾患のある高齢者の約1/3が亡くなる」という恐ろしい顛末となってしまいました（2021年4月27日現在でも、群馬県のコロナ死者数は103名ですから、その約1/6が藤和の苑での死者数になります）。

また、死亡を免れても、入院を受け入れた県内2病院で院内クラスターが発生したり、重い後遺症が残ったりするなど、「藤和の苑」の教訓は群馬県にとって忘れてはならないものとなりました。

COVID-19の流行により、保健行政や地方自治は、かつてないほど重要なものになりました。一昨年まで、保健所の役割を知らなかった多くの人々は、今では毎日のように保健所ごとの感染者数を目で追っています。また、国の下請けに思われていた地方自治体も、独自のルールを設定したり、国に物申したりして、自立性を回復しようとしています。

群馬県は、山本一太知事がリーダーとなって、都内の感染状況を見ながら、県としての判断をしています。知事は県民に、首都圏との往来を控えるよう呼びかけつつも、県の観光業への打撃が最小限になるような方針を組んでいます。この方針は、自立度や独自性が高いと思います。東毛の外国人労働者の感染を除いては、首都圏の流行の余波が抑えられている、といえるでしょう。

グローバル化により、国境というものがなくなるのではないか。多国籍企業のマネーゲームが力をもつことで、国の法律は役割を失うのではないか。大都市への人口過密が進み、夜の経済がさらに活性化するのではないか。これらは、COVID-19の流行以前に立てられていた未来予測です。表面的な経済成長に舞い上がっていた予測の数々は、すべて外れました。

一方、私は「地域医療をやるんだ」という意気込みで、地に足つけて頑張ってきました。その志は、中等を卒業して6年経って、やっと世界中の人々に対して説得力をもつようになりました。

ここで、私の中等時代の話を少しさせてください。

私は中等としての黎明期に在学し、2年生のときに全学年が揃いました。当時は「6年経ったら国際人」というキャッチコピーが生きていました。気概にあふれた優秀な先生方が指導してくださり、1期から4期までの先輩方はそれに応える形で卒業されていきました。私もグローバル社会には人一倍の興味をもっていて、「ボストン組」といえばわかる地球市民語学研修に4年生のとき参加しました。

ただし、その一方で、グローバル社会に諸手を挙げて賛同できない自分もいました。グローバル社会とは、ローカルに頑張る人々の人的・物的資源を、上っ面で横流ししているだけではないのか。ローカルな地元に尽くし、それをグローバル社会に発信することこそ、本当の“World Citizen”ではないのか。その問いに対して答えを出すために、中等の6年間を捧げました。

私のそのような思いは、当時の時代背景も影響しています。在学生の皆さんは信じられないかもしれませんが、私が小学校3年生までは、下仁田町の養蚕は生きていました。養蚕を基幹産業とした農村経済の、最後のきらめきの目撃者が私でした。保育園児の時は、クラスメートを養蚕家屋の2階に招待して、山と積まれた繭を海に見立てて遊びました。私の最愛の祖父が亡くなったのは小学校6年生の時でしたが、祖父の死は私にとって、コミュニティの死や農村の豊かな心の死も意味していました。それまでの「当たり前」が崩れゆく世界で、私は社会と自分をどう捉えるべきか、必死で悩みました。

さらに、中等3年の3月に東日本大震災と、福島第一原発事故が発生しました。直線的に発展してきたと思われた文明社会の、限界点のようなものを当時誰もが感じました。そこから、日本は「別の路線」を模索するようになったと思います。国全体の価値観が「文明の発展→人と人とのつながり」にシフトしていく中、私がたどり着いた生き方は「地域医療の実践」でした。私は自分の意思で、地域医療に尽くすことでグローバル社会を支える決心をしました。私が自治医科大学を受験した2014年当時、まだ地方創生という言葉はありませんでした。10代にしかない本能的な感性で、私はすべてを判断し、結果として2021年現在の困難をも乗り切れていると思います。

皆さんは、好むと好むまいと、国難の時代におとなになります。皆さん一人ひとりにとっても、グローバルな社会にとっても、これほどの影響力で変革を迫る転換点はないでしょう。私がかつて自らの手で拓いた中等6年間よりも、皆さんが経験する6年間は、遥かに難易度が高いと思います。また、中央中等が開学以来一貫してきた“World Citizen：地球市民としての日本人”とはどうあるべきかも、今在学している皆さんにこそ問われています。6年間を卒業した後も、自分の頭で考え、決断しなくてはなりません。

今まで正しいと思われていた常識が崩れ、「生きる」とは何なのかをゼロから考え直す時代。先生方も、私自身を含めた先輩方も、何が正解かはわかりません。若い皆さんには、自分で自由に考える権利と、その考えに責任をもつ義務があります。自分で考え、自分自身に挑戦し続けることが、やがて血肉となり、将来を生きる力になります。

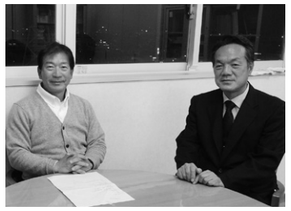
2020年代前半に多感な時期を経験している皆さんには、大きな試練と、そのリスクをかけるに値する成長が待っています。試験では測れない、人間的な成長を、立ち止まり悩みながらも、一歩ずつ着実に遂げているのだと思います。

最後に、皆さんの中で一人でも多くの方に、医療という崇高な使命を職分として選んでいただくことを望みます。また、医療の道を選ばなかったとしても、医療に対する理解を深め、支えてくださることを願っています。

特集 対談

野球部監督
松本　稔 × 時澤秀明
同窓会長

「工夫と努力の継続から得るもの」


松本野球部監督（左）と時澤同窓会長（右）

長年にわたり私たち母校の野球部監督を務めていただいた松本監督が昨年度末に定年退職を迎えた。先生は教員生活36年間のうち20年間を中央高校・中央中等教育学校で過ごし、その間一貫して野球部の監督を務められた。最初に赴任した中央高校では野球部を甲子園に導き、次の赴任先である母校の前橋高校でも甲子園出場を果たした。また、ご自分も現役時代に甲子園に出場し、ピッチャーとして史上初の完全試合を達成して話題となった。

過日、これまでの野球・教員生活を、時澤同窓会長との対談を通して振り返っていただいた。対談は雑談形式で行われた。以下、その一部を掲載する。

会長：先生が教員になろうと決めた時期はいつ頃ですか。
松本：高3の時。理由は2つあって、1つは自己分析をしてみて、自分はひねくれものなので組織に縛られるサラリーマンには向いてないと思ったこと。もう一つは高校野球の指導をしてみたいと思ったこと。
会長：野球を始めたきっかけは。
松本：幼稚園の頃にはキャッチボールの真似事を始めていた記憶がある。本格的に始めたのは、小学校3年の時に地元の少年野球チームに入ってから。
会長：先生は、中学校でも野球を続け、その後進学をした前橋高校で硬式野球を始めて、甲子園にも出場し、史上初の完全試合を達成されました。当時は大変大きな話題となりましたが、その時の心境は？
松本：自分達は運がよかった。実力はなかったので出場できるだけで満足だったが、大敗だけはしたくなかった。記録達成よりも試合に勝利した事の方がうれしかった。
会長：筑波大学に進学後も野球を続けられ、活躍されました。当時の思い出をお話しください。
松本：ポジションはピッチャー。途中バッティングを頑張ろうと思い外野手に転向し、最後はピッチャーに戻ったりして、ある程度自由にやらせてもらったが、優勝を目指していたので遊びではなかった。一番の思い出はベストナインに選ばれた事と1本差で首位打者を逃がした事。
会長：プロを目指そうという気持ちは。
松本：野球をしている以上、最高峰のプロを目指す気持ちは当然あったが、実力差を痛感して無理だと思った。その後は教員を目指そうと決め、それ以外は考えなかった。
会長：その後、大学院に進まれましたが、何かお考えがありましたか。
松本：教員になると決めた以上、もう少し知識を深めたいと思った事と、野球から離れてみたいと思った事も理由の一つ。大学院の2年間はラグビーをやったりして全く野球の事を忘れた。
会長：ラグビーを経験した2年間で今の教員生活に活かせていることは。
松本：ラグビーは1試合が終わると充実感があった。野球にはポジションによってはそれがないことも多い。その充実感を得ることの大切さが今の指導に活かせている。

会長：その後、県の教員として採用され、中央高校へ赴任されて野球部の監督となり、初めての甲子園出場に導いてくれました。初戦の相手は、その後プロ野球に進む選手が5人もいた強豪のPL学園で、途中までリードをし、ひょっとしたら勝つかもしれないと思いましたが、その時の思い出は。
松本：監督は戦略を考えないといけない。勝てないだろうなとは思ったけれど、接戦にはしたかった。1つの策として、ピッチャーには直球を投げない指示をした。実際に、変化球中心の組み立てで何とか接戦に持ち込めた。
会長：相手校の監督が途中から立ち上がってイライラしているのが伝わってきました。
松本：ベンチからも相手の中村監督の落ち着きがなくなっていくのがよく分かった。楽しい思い出になっている。

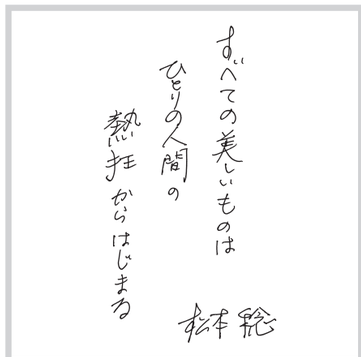
会長：中央高校の後、前橋高校に赴任され、そこでも甲子園に出場されました。この当時を振り返ってみてください。
松本：選手の実力はそれなりにあった。特にピッチャーが関東大会を通して自分で工夫をして成長し、勝ち上がれた。やはり野球はピッチャーなので、そこが1番大きかった。もう一つは、戦略として相手チームをだます事を考えた。具体的には、試合前の公開練習の時、相手を油断させるためにわざとエラーをさせたりした。選手達はそれを実行して見事相手を油断させることに成功して試合はコールド勝ちできた。
会長：先程の、選手が自分で考えて成長したという言葉がキーワードになると思います。どこの学校でも立派な成績を残されたのは、そのあたりが教員として、また監督として大事なところかと感じました。
松本：私が恵まれていたのは、中央高校、前橋高校、中央中等教育学校と自分達で考えて行動を起こせる生徒達がいる環境にいつも置かせていただいた事。恵まれた教員生活だったと思う。

会長：先生は野球部の監督であると同時に体育の教師でもありましたが、体育の教師として心がけていたことは。
松本：時代とともに体育の目的が変わってきた。私は授業の中で厳しさとか鍛えるとかをメインテーマとせず、運動が苦手な子も少しでも運動が好きになり、自分で体を動かすような方向に持っていけるようにすることが私自身のテーマだと思った。生涯スポーツを目指す下地作りのつもりでやってきた。生徒の成長を見ることができれば私もうれしかった。

会長：今、子供達の部活動も転換期を迎えています。特に、少子化の問題に直面していると思うが、これからの高校野球のあり方について先生の考えをお聞かせください。
松本：野球に限らず他の部活動も、本来であれば学校の枠を取り払って地域密着型を目指すべき。国もその方向性を目指しているとは思うが、容易ではない。高校野球では学校単位だと力の差がありすぎ、決まった学校が甲子園に出場する現状が決していいとは思わない。例えば、都道府県対抗にし、弱い学校にいても選抜されれば甲子園に行けるとなれば、生徒も分散すると思うが、実現のためには多くのハードルを越えなければならず、容易ではないだろう。振り返ってみると自分は良い時代に教員、監督生活を経験できたと思う。現状だと、頑張っても県内強豪校に勝つのは非常に難しい。
会長：昔は夢があったように思う。
松本：スポーツの目的・役割は2つあると思う。1つはトップを目指す選手・部員もいれば、ある程度体を動かして楽しめればいいという選手・部員もいる。この2つの形を両方作ってあげないと皆が満足することはできないと思う。

会長：定年退職後の目標を聞かせてください。
松本：例えば、うまくボールを投げられない子供達に指導をしてあげたい。それで少しでも投げ方がよくなれば、楽しさを感じられると思うので、その楽しさを教えたい。そのために、自分の経験を活かしたい。
ゴルフもしてみたいし、のんびり日本一周もしてみたい。声が掛かれば何らかの形で野球にかかわっていきたい。
会長：最後になりますが、20年間の教え子に対してメッセージを頂けますか。
松本：まず感謝したい。沢山の生徒に関わってきたが、理解力・判断力のある素晴らしい生徒達と一緒に生活できて自分自身も成長できた。感謝しかない。教員生活・今までの人生の中で、一番いい瞬間は中央高校で甲子園に行けたときかもしれない。その思い出を作れたことに心から感謝したい。また、何か1つの事に“熱狂”して徹底的に頑張ってもらい、その努力からそこに新しいもの・美しいもの・素晴らしいものが生まれることを経験してもらいたい。最後に野球の話に戻るが、やはり技術の追求を続けてほしい。日々の練習の中で、うまくいかない事も多いがそんなときには精神論に頼るのではなく、メカニズム・テクニックを追求して自分達で考えて結果を出すことを意識してほしい。

会長：本日はありがとうございました。



＊対談は令和2年11月に行われました。本年度、松本先生は再任用され、現在も野球部の監督として指導されています。

生徒会長あいさつ

「21世紀を生きる」

令和2年度生徒会長
5年　リップル アメリ

春うらら。小学生用の自転車に乗って、中央中等までの通学路を初めて下見した日曜日。道のりは遠く果てしなく、途中でよそ見でもしたのか派手に転倒し流血。あの時の膝の痛みを懐かしく思い出す今日この頃です。

私は1年生の秋から毎年生徒会役員に立候補し続け、今年度で5年目の任期となります。1年目は生徒会の体制や先生方との連携などの様子がわからず歯痒い思いをしましたが、2年目からは自分が掲げた公約であるカフェの活性化を中心に、先生方や先輩達、そして仲間に助けられながら様々な生徒会行事を経験することができました。そして生徒会長としての最期の任期。収束の兆しを全く見せないCovid-19に屈することなく、それでも高校生なりに折り合いをつけながら、生徒会は新しい活動を始めました。

生徒会中央放送局によるお昼の放送

まずは生徒会中央放送局。感染対策のために各自が自分の席に座り、黙って味気ないホワイトボードを見つめる寂しいお昼の時間には、生徒からのリクエストによる音楽や漫才などを放送しています。また、昨今騒がれている環境問題にも貢献すべく、使い捨てコンタクトレンズの空ケースの回収を始めました。メーカーや製品の違いに関わらず同じ素材でできているコンタクトレンズケースは、プラスチックのリサイクルに適しています。さらに、生徒会のホームページを1週間に1度更新することで、私たちの水面下での活動を生徒のみなさんとタイムリーに共有できるよう努めています。

コンタクトレンズ空ケース回収ボックス

人種差別、地球温暖化、経済格差といった問題を抱えながらコロナ禍に生きる私たちは、青春を謳歌する権利を放棄するわけにはいきません。前向きに、そして貪欲に、21世紀を生き抜いて行こうではありませんか。

活躍している後輩達

今年度は、新型コロナウイルス禍の影響で、様々な大会が中止となりましたが、そんな状況下でも優秀な成績を収める後輩たちの活躍が目立ちました。

主な成績は次の通りです。

前期女子駅伝部　中体連県大会優勝
陸上5,000mで関東大会出場
後期女子バドミントン部　関東大会出場
将棋同好会　県大会で準優勝

以下に本人達のコメントを掲載します。

●●●●

前期女子駅伝部　　3年　岡村　美来

私達女子駅伝部は、コロナ禍の中感染対策をしながら、8月から12月の関東大会まで、部員全員が一丸となって練習に取り組んできました。校庭のトラックでの練習では、設定ペースを前日より上げたり、前日より一周でも長く走り続けたりと、日々自身の限界突破を目標に走りこんできました。その結果、市大会では4年ぶり、県大会では初めて優勝することが出来ました。関東大会では、自分たちより速いチームばかりで、上位入賞という目標は達成できませんでしたが、全員が仲間を信じて精いっぱいの走りが出来たと思います。応援ありがとうございました。

後期陸上部　　5年　杉森　星彦

10月24、25日に行われた関東高校新人陸上競技大会に出場し、5000mで7位入賞することができました。この大会で8位以内に入ることを目標に練習してきたので、目標を達成できて嬉しく思っています。しかし、今大会で改めて他県の選手のレベルの高さと自分の力不足を感じました。私は、レース終盤のラストスパートを得意としておりましたが、他県の選手には全く通用しませんでした。この結果に満足せず、さらに心身共に鍛え直さなければならないと強く感じました。今大会で得られた課題をこれからの練習に生かし、来年度さらにいい結果を残せるようベストを尽くして頑張ります。

後期女子バドミントン部　　5年　石関　都古

県新人大会の団体戦にて熾烈な戦いの末、やっとの思いで関東選抜への切符を手にすることができました。関東選抜では最後の一球まで諦めずに、1ゲームでも多く勝つことを目標にしました。結果は、初戦にて甲府商業高校（山梨）に3－1で勝利し、二回戦では西武台千葉高校（千葉）に奮闘しましたが、1－3で負けてしまいました。初戦は無駄なミスをすることなく、確実に点数を重ねて勝つことができてよかったです。二回戦は、始めから苦しい展開が続きましたが、私たちの力を最大限に発揮することができたと思っています。

新型コロナウイルスの影響で、十分に練習時間が確保できない期間もありましたが、私たちの中で最高の結果を残すことができてよかったです。関東選抜に出場するにあたり、陰ながらお力添えをいただいた中央同窓会の皆様には大変感謝しております。本当にありがとうございました。

今後もたくさんの人に応援していただけるように頑張っていきたいと思います。

将棋同好会　　4年　桑原　志隆

令和2年11月1日に開催された、全国高等学校文化連盟将棋新人大会・群馬県大会に、3人の会員とともに出場しました。私は全国大会へ繋がるAクラスに出場し、惜しくも優勝は逃したものの、準優勝という結果を得ることができました。本大会は、同年6月に新設された将棋同好会にとって、事実上のデビュー戦となりました。会員の育成の過程において将棋の基本を再確認したことがよい刺激となり、大会への準備にも精力的に取り組むことができたと感じています。全国大会が中止となり、遣る瀬ない思いですが、この悔しさを糧に、次の大会に備え練習を重ねていく所存です。

●●●●

その他にも新聞紙上に後輩達の活躍が掲載されているのを目にします。そのいくつかを紹介します。

●●●●

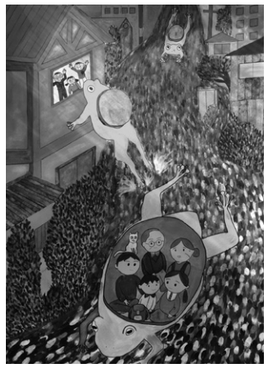
世界青少年発明工夫展で金賞を受賞

世界青少年発明工夫展（IEYI）で、2年生の猪内孔盟君が、ジュニア部門の絵画の部で世界最高賞の金賞を受賞しました。豊かな創造力と革新性が高く評価され、県勢では初の受賞となる快挙でした。

2年　猪内　孔盟

私は2020年の夏、世界青少年発明工夫展の絵画部門に日本代表メンバーとして参加しました。絵画部門は実現が難しいことを絵で表現する部門です。高崎少年少女発明クラブの五十嵐事務局長に、未来の科学の夢絵画展への応募を勧めていただいたことがきっかけで応募しました。コロナ禍のため今回はオンライン上で各国の審査員が、作品の英語によるプレゼンテーションを審査する形となりました。

私は元々プレゼンテーションが苦手で、英語も入学当時はほとんどできませんでした。ですが学校生活を通してプレゼンテーションをすることが身近になり、また英語の授業が楽しいので英語への苦手意識が無くなりました。



今回、担任の松村先生と英語の小澤先生に大変お世話になりました。毎日休み時間に英語のプレゼンテーションの添削や発音チェックをしていただきました。沢山の方々の協力があって、このような賞をいただけたことにとても感謝しています。

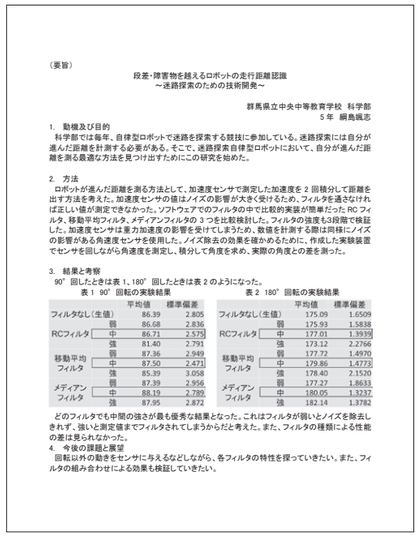
群馬県高等学校文化祭で最優秀賞を受賞

科学部　5年　綱島　颯志

私は昨年12月19日に群馬県総合教育センターで開催された群馬県高等学校文化祭2020自然科学部門のポスター部門に参加し、研究成果を発表しました。そこで最優秀賞をいただき、今年夏に和歌山県で開催される全国高等学校総合文化祭に群馬県代表として参加することとなりました。

今回の研究発表は一人で行ったものですが、代表に選ばれることができたのは、休校期間中もオンラインを活用して、部員全員でディスカッションを重ねてきた成果の現れだと思います。

これから全国大会までに、さらに研究をより良いものにし、私の科学部の活動の集大成として悔いのないものにしたいです。



（要旨）

段差・障害物を越えるロボットの走行距離認識
～迷路探索のための技術開発～

群馬県立中央中等教育学校　科学部
5年　綱島颯志

1.　動機及び目的
科学部では毎年、自律型ロボットで迷路を探索する競技に参加している。迷路探索には自分が進んだ距離を計測する必要がある。そこで、迷路探索自律型ロボットにおいて、自分が進んだ距離を測る最適な方法を見つけ出すためにこの研究を始めた。

2.　方法
ロボットが進んだ距離を測る方法として、加速度センサで測定した加速度を２回積分して距離を出す方法を考えた。加速度センサの値はノイズの影響が大きく受けるため、フィルタを通さなければまともな値が測定できなかった。ソフトウェアでのフィルタの中で比較的実装が簡単だった RC フィルタ、移動平均フィルタ、メディアンフィルタの３つを比較検討した。フィルタの強度も段階で検証した。加速度センサは重力加速度の影響を受けてしまうため、数値を計測する際は同様にノイズの影響がある角速度センサを使用した。ノイズ除去の効果を確かめるために、作成した実験装置でセンサを回しながら角速度を測定し、積分して角度を求め、実際の角度との差を測った。

3.　結果と考察
90°回したときは表１、180°回したときは表２のようになった。

表１　90°回転の実験結果

		平均値	標準偏差
フィルタなし（生値）		86.39	2.805
RCフィルタ	弱	86.68	2.836
	中	86.71	2.575
	強	81.40	2.791
移動平均フィルタ	弱	87.36	2.949
	中	87.50	2.471
	強	85.39	3.058
メディアンフィルタ	弱	87.39	2.956
	中	88.19	2.789
	強	87.95	2.872

表２　180°回転の実験結果

		平均値	標準偏差
フィルタなし（生値）		175.09	1.6509
RCフィルタ	弱	175.93	1.5838
	中	177.01	1.3939
	強	173.12	2.2766
移動平均フィルタ	弱	177.72	1.4970
	中	179.86	1.4773
	強	178.40	2.1520
メディアンフィルタ	弱	177.27	1.8633
	中	180.05	1.3237
	強	182.14	1.3782

どのフィルタでも中間の強さが最も優秀な結果となった。これはフィルタが弱いとノイズを除去しきれず、強いと測定値までフィルタされてしまうからだと考えた。また、フィルタの種類による性能の差は見られなかった。

4.　今後の課題と展望
回転以外の動きをセンサに与えるなどしながら、各フィルタの特性を探っていきたい。また、フィルタの組み合わせによる効果も検証していきたい。

エコノミクス甲子園群馬大会優勝

高校生が2人1組のクイズ形式で金融、経済の知識を競うエコノミクス甲子園群馬大会で、本校5年の後藤柚香さんと中村胡々乃さんペアが優勝しました。同大会では本校が3連覇中です。

5年　後藤　柚香

第14回、第15回エコノミクス甲子園に参加させていただきました後藤柚香です。エコノミクス甲子園とは「全国の高校生がペアになって金融、経済分野の知識を競う」クイズイベントで、各都道府県で開催される地方大会を優勝することができれば、全国大会に出場できるというものです。第14回大会では黛萌夏さんと全国大会に出場し、第15回大会では中村胡々乃さんが相方となって再び群馬大会を制し、2021年2月14日にコロナ禍に対応すべくオンライン開催された全国大会に参加しました。

両大会を通じて知識が若干増えたことは、日頃からクイズに没頭する身としては楽しいこと限りなく、また、その知識をもって、全国の高校生たちと関わることができたというのは、現在の閉鎖的な状況下での比類ない経験でした。

最後になりますが、よすがとなってくださった先生方やクラスメイトに感謝いたします。

＊母校だよりの原稿は昨年度中に書かれたもので、所属・肩書・学年等はすべて令和3年3月1日現在のものです。

令和3年4月1日付
学校教職員人事異動（敬称略）

離退任者

職	名【教科】氏名	転出先等
教	諭【保健体育】松本　稔	定年退職（再任用 本校）
教	諭【国語】吉田　信子	退職 前橋女子高校（非常勤）
教	諭【理科】松井　孝夫	退職 利根商業高校（非常勤）
教	諭【数学】内田　靖子	群馬県教育委員会事務局
教	諭【保健体育】新井　真優	吉岡町立吉岡中学校
教	諭【英語】小山　郁江	太田市立旭中学校
教	諭【保健体育】市川　武	富岡高校
教	諭【英語】須永　貴仁	高崎市立群馬中央中学校
教	諭【数学】岡田　一輝	高崎高校
教諭（再任用）	【社会】大図　武史	（新）桐生高校
教諭（育休補）	【英語】川田　由美	渋川高校

新任者

職	名【教科】氏名	前任校等
教	諭【社会】赤岩　聖	高崎北高校
教	諭【保健体育】北嶋　将志	高崎特別支援学校
教	諭【数学】髙木　秀幸	清明高校
教	諭【英語】小島　優	松井田東中学校
教	諭【理科】佐藤　諒奈	下仁田高校
教	諭【国語】本間　智子	館林女子高校
教	諭【英語】岡田　夏実	富岡東中学校
教諭（再任用）	【数学】外処　直哉	前橋女子高校
教諭（再任用）	【保健体育】松本　稔	本校
教諭（地公臨）	【保健体育】上田　直美	桐生西高校
非常勤	【英語】奈良　夕子	吾妻中央高校
非常勤	【数学】青野　圭子	在家

収支報告

平成31年度
群馬中央同窓会決算

一般会計

収入の部　（単位：円）

科目		予算額	決算額	差引増減	備考
繰越金		171,467	171,467	0	
運営費計		3,432,000	3,221,000	△211,000	
	入会金	1,240,000	1,220,000	△20,000	10,000円×122名
	特別会費	992,000	976,000	△16,000	8,000円×122名
	年会費	1,200,000	1,025,000	△175,000	2,000円×510名、5,000円×1名
総会会費		200,000	82,000	△118,000	
特別積立会計より		1,700,000	1,100,000	△600,000	
その他収入		533	8	△525	預金利息
合計		5,504,000	4,574,475	△929,525	

支出の部　（単位：円）

科目		予算額	決算額	差引増減	備考
会議費計		520,000	272,983	247,017	
	総会	400,000	219,083	180,917	通常総会
	会議費	120,000	53,900	66,100	役員会
事業費計		4,439,000	3,842,394	596,606	
	会員親睦費	200,000	100,000	100,000	活動費補助
	母校寄与事業	1,000,000	1,000,000	0	図書蔵書、地球市民語学研修補助ほか
	会報作製費・発行費	2,600,000	2,547,154	52,846	会報作製・発送
	行事費	600,000	156,410	443,590	開校記念式典ほか
	Webページ設置管理料	39,000	38,830	170	Webページ管理料
役務費計		85,000	85,762	△762	
	通信費	15,000	0	15,000	
	払込手数料	70,000	85,762	△15,762	年会費払込料金加入者負担額
渉外費		100,000	23,400	76,600	中央中等職員歓送迎会参加費ほか
広告費		50,000	54,000	△4,000	高校野球ガイド広告掲載料
慶弔費		120,000	21,610	98,390	香典、供花
卒業記念品費		85,000	78,639	6,361	卒業証書ホルダー
転退職員餞別		65,000	65,000	0	転退職員餞別
積立金		0	0	0	
予備費		40,000	0	40,000	
合計		5,504,000	4,443,788	1,060,212	

収入総額4,574,475円－支出総額4,443,788円＝130,687円（次年度へ繰り越し）

特別積立会計

収入の部　（単位：円）

科目	予算額	決算額	差引増減	備考
繰越金	33,888,585	33,888,585	0	
一般会計繰入金	0	0	0	
その他収入	415	260	△155	預金利息
合計	33,889,000	33,888,845	△155	

支出の部　（単位：円）

科目	予算額	決算額	差引増減	備考
同窓会費―一般会計へ	1,700,000	1,100,000	600,000	
周年事業	0	0	0	
その他支出	32,189,000	0	32,189,000	
合計	33,889,000	1,100,000	32,789,000	

収入総額33,888,845円－支出総額1,100,000円＝32,788,845円（次年度へ繰り越し）

監査の結果、適切と認めます。

令和2年3月31日　　会計監査　工藤　雅史
生沼　英治

令和2年度
群馬中央同窓会予算

一般会計

収入の部　（単位：円）

科目		予算額	前年度予算額	比較増減	備考
繰越金		130,687	171,467	△40,780	
運営費計		3,342,000	3,432,000	△90,000	
	入会金	1,190,000	1,240,000	△50,000	10,000円×119名
	特別会費	952,000	992,000	△40,000	8,000円×119名
	年会費	1,200,000	1,200,000	0	2,000円×600人
総会会費		200,000	200,000	0	
特別積立会計より		1,700,000	1,700,000	0	
その他収入		313	533	△220	預金利息
合計		5,373,000	5,504,000	△131,000	

支出の部　（単位：円）

科目		予算額	前年度予算額	比較増減	備考
会議費計		520,000	520,000	0	
	総会	400,000	400,000	0	通常総会
	会議費	120,000	120,000	0	役員会
事業費計		4,240,000	4,439,000	△199,000	
	会員親睦費	200,000	200,000	0	活動費補助
	母校寄与事業	1,000,000	1,000,000	0	図書蔵書、地球市民語学研修補助ほか
	会報作製費・発行費	2,700,000	2,600,000	100,000	会報作製・発送
	行事費	300,000	600,000	△300,000	開校記念式典補助ほか
	Webページ設置管理料	40,000	39,000	1,000	群馬中央同窓会ホームページ管理料
役務費計		115,000	85,000	30,000	
	通信費	15,000	15,000	0	郵便料、メール便
	払込手数料	100,000	70,000	30,000	年会費払込料金加入者負担額
渉外費		100,000	100,000	0	交際費
広告費		60,000	50,000	10,000	高校野球ガイド広告掲載料ほか
慶弔費		120,000	120,000	0	慶弔
卒業記念品費		85,000	85,000	0	卒業証書ホルダー
転退職員餞別		60,000	65,000	△5,000	転退職員餞別金
積立金		0	0	0	特別会計積立金
予備費		73,000	40,000	33,000	
合計		5,373,000	5,504,000	△131,000	

特別積立会計

収入の部　（単位：円）

科目	予算額	前年度予算額	比較増減	備考
繰越金	32,788,845	33,888,585	△1,099,740	
一般会計繰入金	0	0	0	
その他収入	155	415	△260	預金利息
合計	32,789,000	33,889,000	△1,100,000	

支出の部　（単位：円）

科目	予算額	前年度予算額	比較増減	備考
同窓会費―一般会計へ	1,700,000	1,700,000	0	
周年事業	0	0	0	
その他支出	31,089,000	32,189,000	△1,100,000	
合計	32,789,000	33,889,000	△1,100,000	

令和２年度卒業生（12期生）進路概況

群馬県立中央中等教育学校進路指導部

１　概況

令和３年３月に本校を卒業した12期生119名（男子58名、女子61名）は、大学入試改革・コロナ禍の中、「第１志望校、現役合格」をめざして一人ひとりが前進し、自分の夢や希望を実現すべくそれぞれの進路先に進みました。現役進学率は、過去最高の96.6％です。

本校は平成26年度に文部科学省からSGH（スーパー・グローバル・ハイスクール）に指定され、グローバル教育を推進しています。さらに、平成29年度からは全校をあげてアクティブ・ラーニングを軸とした授業改善に取り組んでいます。また、本校の伝統的な進路指導は「自らの努力で進路をつかみとる力」や社会における「自己有用感」をキーワードとしています。このような先進的な教育環境下で、生徒は授業や諸活動に対して探究的な態度で取り組み、将来自らが取り組む社会的な課題を発見します。さらに、自己の適性をふまえ、その研究・解決に取り組む場を第１志望校として設定します。そして、その自己実現をめざして学力の向上に取り組みます。これらの過程における、生徒一人ひとりに寄り添ったきめ細かい支援も、本校進路指導の特色のひとつです。

12期生は、こうした教育環境下で、個々の進路意識を養い、本校を卒業しました。近未来の社会において本校の教育理念である「World Citizen」として活躍するものと確信しています。

２　最難関大、医学部医学科

現役生は、京都大に２名（ともに工）が進学します。男女別内訳は男子１名、女子１名です。また、医学部医学科については、東北大に１名のほか、群馬大、福島県立医大にそれぞれ２名、計５名が進学します。その男女別内訳は男子２名、女子３名です。

３　国公立大

最難関大を含む国公立大には現役生のべ64名が合格し、そのうちの54名が進学します。「THE世界大学ランキング日本版2021」で、２年連続日本一に選出された東北大に８名のほか、九州大に２名、名古屋大、大阪大にはそれぞれ１名が進学します。

４　私立大

コロナ禍において受験校を絞ったり、地元志向が強まったりしたせいか、首都圏有名私立大は軒並み志願者が減少しました。その中で、12期生はよく健闘しました。最多進学先は早稲田大で10名が進学します。そのうち指定校推薦による進学者は６名でした。

５　過年度卒業生【参考】

現役時には紙一重で涙をのんだ卒業生の進路先としては、京都大（総合人間、医）、群馬大（医）等があげられます。

６　展望

新型コロナウイルス感染症に伴う休校などがあったせいか、難化が予想された「大学入試共通テスト」は、昨年度とほぼ変わらない平均点でしたが、教科によっては思考力・判断力が求められる問題が出題されました。13期生以降はよりいっそう思考力・判断力が求められる試験になっていくことが予想されます。本校は、グローバル教育と授業改善をいっそう前進させることが、大学入試改革への対策に直結するものと考えています。生徒全員の「第１志望校、現役合格」を実現するために、今後も関係の皆様のご理解、ご支援を賜りますようお願いいたします。

【表１】卒業生の進路別実人数（現役生のみ）

卒業期	卒業生数	大学 国公立	大学 私立	準大学等	就職	進学努力	現役進学率（％）
1	124	50	53	4	0	17	86.3
2	124	51	56	4	0	13	89.5
3	119	50	48	0	0	21	82.4
4	120	49	54	3	0	14	88.3
5	124	60	52	4	0	8	93.5
6	119	61	46	3	0	9	92.4
7	122	60	53	2	0	7	94.3
8	122	44	62	5	0	11	91.0
9	123	52	55	1	0	15	87.8
10	122	57	59	0	0	6	95.1
11	122	65	43	3	0	11	91.0
12	119	54	61	0	0	4	96.6

【表２】12期生文理別、男女別進路先（実人数）

	卒業生数	大学 国公立	大学 私立	準大学等	就職	進学努力
文系男子	17	7	10	0	0	0
文系女子	33	9	22	0	0	2
理系男子	41	22	18	0	0	1
理系女子	28	16	11	0	0	1

- 準大学等…文部科学省所管外の大学校のほか、短大、専修・各種学校、海外の大学等を含む
- 現役進学率…（卒業生数－進学努力）／卒業生数×100

大学等合格者数（最近の３年間）

群馬県立中央中等教育学校進路指導部

- 年度は入試年度
- 数字はのべ人数
- （　）内は過年度卒業生の内数
- 大学名、学部名等は現在の名称
- 準大学等…短大、専修・各種学校、海外の大学等を含む
- 令和３年３月末日までの判明分

国立大学

大学名	H31	R2	R3
旭川医科	1		
北海道		1	1
北海道教育		1	
弘前		1	
岩手	1		
東北	10	5	8
秋田		1	
山形	2		1 (1)
茨城	1		
筑波	2	4	
宇都宮			1
群馬（情報）	1	1	3
群馬（共同教育）	3	4	1
群馬（理工）	5	1	2
群馬（医－医）	3	3	4 (2)
群馬（医－保健）	2		3
埼玉		2	1
千葉	1 (1)	3	4
お茶の水女子	1 (1)	1	1
電気通信		2	
東京	3 (2)	4	
東京医科歯科			1
東京外国語	1	1	3
東京海洋		1	
東京学芸	1	1	1
東京藝術	2 (1)	1	1
東京工業	1		1
東京農工	2	2 (1)	
一橋	2		
横浜国立	1	3	3
新潟	1 (1)	3	2 (1)
富山	1		1
金沢	2	2	3
山梨		1	
信州			4 (2)
静岡		2	
名古屋	1	2	1
名古屋工業		1	
京都	2 (1)	3	4 (2)
大阪	1	2	1
大阪教育	1		
鳥取		1	
鳴門教育		1	
広島	1		2
九州			2
佐賀		1	
宮崎			1
合　計	56 (7)	62 (1)	61 (8)

公立大学

大学名	H31	R2	R3
国際教養		1	
福島県立医科			2
群馬県立県民健康科学	1	1	
群馬県立女子	3	3	
高崎経済	7	6	4 (2)
前橋工科	1 (1)	1 (1)	
横浜市立		1	2
新潟県立		2 (1)	1
都留文科			1
長野		1	
長野県立		1	
公立諏訪東京理科	1	1	
岐阜薬科	1		
敦賀市立看護			1
九州歯科		1	
合　計	14 (1)	19 (2)	11 (2)

私立大学（抜粋）

大学名	H31	R2	R3
自治医科	2		
共愛学園前橋国際	5	6	5
高崎健康福祉	10	8	13
青山学院	9 (2)	12	5
慶應義塾	14 (2)	11 (1)	8 (1)
国際基督教	1	1	
駒澤	7 (2)	6	4
芝浦工業	8 (1)	19	34
上智	6	1	2
専修	11	8	6
中央	22	19	18
津田塾	5	8	3
東京女子	2	8	4
東京理科	23 (5)	22	25
東洋	18	18	11
日本	7	16 (3)	26
日本女子	7	11	3
法政	22 (2)	5	22
明治	27 (5)	21 (1)	24
立教	26 (1)	17	11
早稲田	28 (6)	13 (1)	17 (1)
同志社	2	2	4
立命館	6	4	10
合　計	393 (41)	371 (13)	403 (24)

準大学等（抜粋）

学校名	H31	R2	R3
防衛大学校		2	
防衛医科大学校		1 (1)	1 (1)
海上保安大学校		1	
合　計	0	9 (1)	1 (1)

令和2年度 通常総会

当初、令和2年6月13日㈯に予定されていた通常総会は、新型コロナウィルス感染拡大のため延期となり、その後中止となりました。10月24日㈯に総会を兼ねた拡大役員会を開催し、令和2年度の議案を審議しました。

令和2年度 同窓会組織役員

会長
時澤　秀明　(13)

副会長
佐藤　義久　(11)
川島　陽一　(14)

書記
福田　幸正　(8)
鈴木　正治　(8)

会計
小和瀬一幸　(14)

会計監査
工藤　雅史　(12)
生沼　英治　(17)

理事
藤川　清幸　(11)
砂長　　聡　(14)
関口　朋克　(20)
渡邊　辰吾　(30)
㊨反町　雅浩　(14)
㊨阿久津　等　(31)

首都圏支部長
後藤隆次郎　(9)

首都圏支部役員
上原　裕一　(9)

顧問
塚越　陽平　(1)
塚越三三男　(2)
市川　光則　(6)

※（　）数字は中央高校卒業期数

令和2年度 群馬中央同窓会事業報告

4月7日㈫　中央中等教育学校第17回入学式出席
5月18日㈪　同窓会報27号発行
10月24日㈯　拡大役員会（兼総会）
11月26日㈭　役員会
3月5日㈮　中央中等教育学校第12回卒業式出席
＊令和2年度はコロナ禍により活動自粛を余儀なくされた1年でした。

朋友会ゴルフコンペ

例年4月29日と11月3日の年2回開催されている朋友会ゴルフコンペですが、令和2年度は11月3日1回のみの開催となりました。今年度は例年通りの開催予定ですので、皆様ご参加ください。
連絡先：佐藤　義久（11期）　携帯：090-3539-5745
E-mail：secfield@olive.ocn.ne.jp

年会費振込についてのお願い

会費は同窓会の運営のほか、教育支援等、母校の発展のためにも使われています。主旨をご理解いただき、年会費2,000円を納入頂けますようお願いいたします。お手数ですが、同封の振込用紙をご利用の上、郵便局からお振込みください。

●**年会費振込口座**　ゆうちょ銀行　00570-4-49058
口座名　群馬中央同窓会

●**ATMによる振込も可能ですのでご利用ください。**
（ただし、手数料がかかります）
- 群馬銀行　本店営業部　普通預金　2445643
口座名　群馬中央同窓会　会長　時澤秀明
- 東和銀行　新前橋支店　普通預金　0372142
口座名　群馬中央同窓会　会長　時澤秀明

朋友基金　寄附のお願い

2017年度にスタートした朋友基金は、群馬県立中央中等教育学校の教育活動を後援し、人間力に富んだグローバルリーダー育成に寄与することを目的とします。学校が行う教育活動への資金援助と運営補助などの様々な事業を行います。これらすべてが皆様からの寄附金により成り立ちます。どうぞ朋友基金へのご支援を賜りますようお願い申し上げます。
朋友基金　理事長　矢島 正（元校長）

寄附金　振込先
●群馬銀行　高崎支店　普通　2162103
朋友基金　理事長　矢島正
●ゆうちょ銀行（総合口座）　10400　30739211
朋友基金
振込の際の手数料は、各自で負担をお願いいたします。
一口1,000円より（何口でも可）

編集後記

会報28号を無事発行することができ、学校・関係者の方々に御礼申し上げます。
さて、この編集後記を執筆中の現在、新型コロナウィルスの感染は猛威を振るい、その勢いはとどまるところを知りません。前号の編集後記でもこのことに触れていますので、もう1年以上も私達は目に見えない恐怖から日常生活を脅かされていることになりますが、ワクチンの供給も始まるようですので、もう少しの辛抱だと思います。次号こそ平穏な編集後記が書けることを祈念いたします。